

保育者養成校におけるシラバスにみられる 運動遊びに関する指導内容

今 西 香 寿*

Instruction contents of the exercise play for the
childminder training school in the syllabus

Kazu Imanishi

【キーワード】 保育者養成, 運動遊び, 指導内容

I. 問題の所在と目的

子どもにとって遊び経験は「生きていく力」を身につけるために必要な経験であると言える。勅使（1999）は遊びの本質について、①年齢に応じて楽しみ、おもしろさを追求する活動である、②自主的、自発的に取り組む活動である、③身体的諸力の発達をうながす、④知的諸能力を発達させる、⑤人と人とを結び、交友性や社会性を形成すると述べている。しかし、社会環境やライフスタイルの変化により、子どもにとっての遊ぶ時間や仲間、空間が減少し、遊びも変化してきている。子どもの遊びの移り変わりに関する中村（1999）の調査によると、祖父母世代（60代～70代）においては、メンコやビー玉、野球が遊びの上位を占めており、父親世代（30代～50代）においても、メンコやビー玉、野球などの遊びが上位を占めていた。このことから、祖父母世代から父親世代へと遊びが伝承されてきたと考えられる。しかし、子どもの遊びをみると、現在の子どもにおいては、野球は残っているものの、テレビゲームやカード遊びが上位に入ってくるようになっている。すなわち、外で身体を使って遊ぶよりも室内遊びが増え、身体を思いっきり動かす経験が減ってきているのである。

身体を動かす経験が減少している傾向は、今日一層強くなっていると言えよう。それに伴って、体力・運動能力の低下¹⁾や自分自身の身体をうまく動かすことができない子どもが増えてきている²⁾。

幼児期において楽しく身体を動かす経験は、心身の発育発達に大きな影響を及ぼすと言われ

所属および連絡先

* 大阪千代田短期大学

ている。幼児期運動指針（2013）においても、幼児期は運動機能が急激に発達し、多様な動きを身に付けやすく、多様な運動刺激を与えて、体内に様々な神経回路を複雑に張り巡らせていくことが大切な時期であり、楽しく身体を動かす遊びは、基礎的な体力や運動能力を発達させるだけでなく、友達との関わりを通して、コミュニケーション能力、やる気や集中力、社会性や認知的能力などを育む機会を与えてくれると述べられている。

子どもが楽しく身体を動かす経験をするために保育者の役割が重要となってくる。幼稚園、保育園、認定こども園等においては、子どもにとっての遊び環境は、保育者がつくり出す環境によって変わると考えられる。保育者が子どもに対し、いろいろな遊びの中で多様な動きが出現し、楽しみながら身体を動かすことができるような環境をつくり、子どもの発育発達を考慮し、子どもたちが主体的に遊ぶことができるきっかけづくりをしていく必要があることについては多くの指摘がなされている。岩井（2010）は、幼児は多くの時間を幼稚園・保育所で過ごすので、親や家族に次いで保育者の影響を受けやすく、保育者が上手に幼児に関わり、運動することの楽しさを伝える役割を果たす必要があると述べている。宮丸（2011）は、保育者は子どもの運動発達の状況や特徴をよく理解して、子どもが動きたくるように環境を整えることが必要であると述べている。青野（2014）は、保育者は様々な遊びの中で、幼児期ならではの発達のチャンスを逃さないように、遊びの環境づくりをすることが大切であると述べている。また、穂丸（2003）は、昔の子どもが幼児期から学童期に教師や保育者に教えられなくても環境に応じて色々な遊びを展開できたのは、異年齢集団の中でガキ大将から見よう見真似で学ぶというプロセスを経て、遊びをたくさん学習してきたからであり、今は遊びを伝えるガキ大将の役割を担う子どもの集団は崩壊しており、保育者自身がガキ大将の役割を担わなければならないと述べている。

上述のような指摘から考えると、保育者には、さまざまな遊び環境が作れるように、たくさん遊びの引き出しを持っていることが必要である。しかし、新人保育者はその基盤となる子どもの頃の豊富な遊び体験を十分にできていないように思われる。穂丸（2007）は、日韓の幼稚園や保育園で伝承遊びの実施状況と保育者の認識について調査を行った結果、日本全体の99%の幼稚園や保育所で伝承遊びが実施されていたが、年齢別に実施率を比較したところ、30歳代～50歳代以上の実施率は30%以上であるのに対し、20歳代の若手世代の実施率は15%以下で非常に低く、伝承遊びに関する知識や指導能力の低下が懸念されたと述べている。

これから保育者を目指す学生においても、同様の傾向があり、特に身体を使った運動遊びの経験が少ないことが指摘されている。大橋・谷本（2008）は、約30年間における保育者養成学生の伝承遊びの意識変化について、アンケート調査を行っている。1980年度入学生と2007年度入学生を比較した結果、身体を十分に使った遊びが現在に近づくにしたがって減少していることを報告している。戸外遊びでは、約30年前に比べ鬼ごっこの種類は多くなっているが、

身体をぶつけ合ったり、ふれあったりする遊び経験がないに等しくなっている」と述べている。青野（2014）は、保育者養成校の学生を対象に、幼児期、小学校低学年・高学年の伝承遊びの経験を調査した結果、幼少期に育まれる調整力（敏捷性、平衡性、巧緻性、協応性）や社会性、協調性などが育まれる遊びである「子とろ子とろ」「じゃんけん渦巻き」「馬乗り」など、運動量の多い遊びを知らないと述べている。このようなことから考えると、保育者を目指す学生は、運動遊びの楽しさをしっかり体験するとともに、いろいろな遊び手段を習得し、幼児に必要なと思われる遊びを指導していく力を身に付けていく必要があるだろう。そのためには、保育者養成校における運動遊びに関するカリキュラムや授業が重要な役割をもつと考えられる。

堀・松本（2012）は、保育者養成校においてどのような形の運動遊びの展開が望まれるのか、運動遊びを指導・援助する保育者にどのようなことを身に付けることが期待されるのかについて検討を加えている。その結果、保育者養成校における運動遊びのねらいとして、運動遊びそのものを楽しむ気持ちを育むことが中心となると述べている。さらに、幼稚園教育要領や保育所保育指針において具体的な運動種目や活動、遊びが示されていないので、子どもに提示される運動遊びの教材として何が考えられるのか、教材そのものの提示のしかた、効果的な援助及び指導方法を身に付けることは保育者の専門性として要求される重要な資質でもあるとしている。

しかしながら、保育者養成校において、実際にどのような運動遊びの指導をしているのかという観点からの研究は見当たらない。そこで、本研究では、運動遊びの指導を考えていくために、保育者養成校において、運動遊びの授業が実際にどのような指導内容でなされているのかを明らかにしていくことを目的とする。そのために各保育者養成校で提示されている授業のシラバスを分析対象として取り上げる。

II. 方 法

1. 対 象

保育者養成校における幼児の運動遊びに関するシラバス（関西における保育者養成を行っている短期大学 34 校の 2017 年度のシラバスのうち、幼児の運動あそびに関する内容が含まれているもの）を対象とした。

2. 収集手続き

関西地域で保育者養成を行っている短期大学のホームページを検索し、幼児の運動遊びに関するシラバスを収集した。ホームページから検索できなかった保育者養成校のシラバスは対象から除かれている。

3. 分析方法

それぞれの授業でどのような内容を扱っているかを検討するために指導内容のカテゴリーを作成し、授業時数（コマ数）をカウントした。授業内容のカテゴリーは扱われている運動遊びの種類を明らかにできるよう作成した。運動遊びの種類は、筆者が幼稚園や保育園で行われていると考えるカテゴリーから構成している。また、実習において指導案や模擬保育等も行われていると考え、種類の中に含めた。指導内容のカテゴリーは、次の20項目である。(1)鬼ごっこ、(2)ボール、(3)フープ、(4)器械遊具（サーキット遊びを含む）、(5)リズム遊び、(6)パラバルーン、(7)組体操、(8)なわとび、(9)水遊び、(10)ふれあい遊び、(11)伝承遊び(竹馬・コマ)、(12)固定遊具、(13)その他（遊び）、(14)運動会、(15)安全管理、(16)救急法、(17)発育発達、(18)その他（オリエンテーション・まとめ）、(19)模擬保育・指導実習、(20)指導案。

運動遊びの種類を特定できない遊びは、(13)その他（遊び）に分類した。授業の1コマの中に、2種数、3種数の遊びが記載されている場合は、2種数の場合は、0.5コマずつ、3種数の場合は0.3コマずつとカウントをした。

Ⅲ. 結果と考察

指導内容としての運動遊び

各保育者養成校のシラバスをもとに授業における指導内容を分類したものが表1である。表1をもとにして、各カテゴリーの指導内容を実施した学校数を算出したものが表2である。表1に示されたすべての授業数を平均して15時間の授業にしめる各カテゴリーの指導内容の時間数を示したものが表3である。

器械遊具（サーキット遊び）

保育者養成校において、各種の運動遊びの中で最も多く行われていた指導内容は、器械遊具（サーキット遊び）に関する内容である。器械運動（サーキット遊び）は、34校中31校（91.1％）で行われており、15コマあたり1.99コマ行われていた。サーキット遊びは、跳び箱において跳び箱を飛び越えたり、マットにおいて回ったりなど、幼児にとって基本的動作が多様に出現すると捉えられているのではないかと推察する。幼児期運動指針（2013）には、基本的動作について、立つ、座る、寝ころぶ、起きる、回る、転がる、渡る、ぶら下がるなど「体のバランスをとる動き」や、歩く、走る、はねる、跳ぶ、登る、下りる、這う、よける、すべるなど「体を移動する動き」、持つ、運ぶ、投げる、捕る、転がす、蹴る、積む、こぐ、掘る、押す、引くなどの「用具などを操作する動き」であると述べている。よって、器械遊具の配置の仕方や器具の種類によって、多様な動きが出現すると考えられる。

表 1 保育者養成校における運動あそびの授業に関する指導内容

短大	授業科目	コマ数	鬼ごっこ	ボール	フープ	器械遊具 (サーキット 遊び)	リズム 遊び	パラバルーン	組体操	なわとび	水遊び	ふれあい 体操	伝承遊び (竹馬・ コマ)	固定遊具	その他 (遊び)	運動会	安全管理	救急法	発育発達	指導案	模擬保育・ 指導実習	その他 (まとめ など)
1	a	30	1.3	1.7	1.7	4.0	4.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	1.0	0.0	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	6.0	3.0
2	a	15	0.5	0.5	0.5	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0	2.0
3	a	15	0.3	0.5	0.5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	7.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.5
4	a	15	1.0	1.0	0.5	0.5	4.5	1.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	b	15	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	1.0
5	a	15	0.5	1.0	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	3.0	2.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	6.0	2.0
6	a	15	2.0	2.0	0.0	3.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	4.0	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	1.0
7	a	30	0.0	0.5	0.5	3.0	0.6	0.0	0.0	0.5	0.0	0.6	0.5	0.5	5.6	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	b		2.0	0.0	0.0	5.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
8	a	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	2.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
9	a	15	0.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	b	15	1.0	0.5	0.5	2.0	3.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.5	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
10	a	15	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
11	a	15	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.0	0.0	0.0	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	b	15	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.5	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	a	15	0.0	2.0	0.5	5.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	3.0	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	6.0	1.0
13	a	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	9.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	7.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0	2.0
14	a	15	1.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	2.0	3.0	4.0	1.0
15	a	15	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
16	a	15	0.0	2.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	2.0
	b	15	4.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
17	a	15	0.0	0.0	0.0	10.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	2.0
	b	30	0.0	3.0	0.0	7.0	2.0	1.0	3.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
18	a	15	0.5	2.0	1.0	4.0	0.0	1.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	1.0
	b	30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.0	1.0
19	a	15	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	2.0
20	a	15	1.0	1.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
21	a	15	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	2.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	2.0	9.0	2.0
22	a	15	0.0	1.0	1.0	3.0	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	1.5	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0
23	a	15	0.0	0.8	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	11.0	2.0
24	a	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	b	15	1.0	2.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
25	a	15	1.0	4.0	0.3	1.8	0.0	0.0	0.0	0.3	1.0	0.0	1.0	0.0	3.8	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
26	a	15	3.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	3.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
27	a	15	0.0	2.0	0.0	4.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	b	15	0.0	0.0	1.0	4.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.5	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1.0	1.0
28	a	15	2.0	1.0	1.0	4.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	b	15	2.0	2.0	1.0	4.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
29	a	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	b	15	2.0	2.0	0.0	1.0	5.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	c	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0	2.0
30	a	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	1.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0
	b	15	0.0	3.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
31	a	30	1.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	3.0	0.0	0.0	0.0	2.0	9.0	1.5
32	a	15	1.0	2.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
33	a	15	0.0	4.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.0	0.0	1.5	0.0	1.0	0.0	1.5	0.0	0.0	1.5
	b	15	0.0	0.0	0.0	0.0	9.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
34	a	15	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0	3.0	0.0	1.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	b	15	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.0	0.0

表 2 各指導内容を実施した学校数

	鬼ごっこ	ボール	フープ	器械遊具 (サーキット あそび)	リズム 遊び	パラバルーン	組体操	なわとび	水遊び	ふれあい 体操	伝承遊び (竹馬・ コマ)	固定遊具	その他の 遊び	運動会	安全管理	救急法	発育発達	指導案	模擬保育・ 指導実習	その他 (まとめ など)
学校数	22	26	15	31	15	12	2	23	4	9	16	2	31	11	10	2	7	14	15	31

表 3 各指導内容が授業の中に占める時間数

	鬼ごっこ	ボール	フープ	器械遊具 (サーキット あそび)	リズム 遊び	パラバルーン	組体操	なわとび	水遊び	ふれあい 体操	伝承遊び (竹馬・ コマ)	固定遊具	その他 (遊び)	運動会	安全管理	救急法	発育発達	指導案	模擬保育・ 指導実習	その他 (まとめ など)
時間数 (コマ)	0.53	0.85	0.23	1.99	0.84	0.27	0.03	0.55	0.20	0.12	0.44	0.01	3.71	0.47	0.17	0.02	0.22	0.55	2.07	1.44

ボール・なわとび・鬼ごっこ

続いて多く行われている指導内容は、ボールである。ボールは、34 校中 26 校（76.8%）で行われており、15 コマあたり 0.85 コマ行われていた。そして、なわとびは、34 校中 23 校（76.5%）で行われており、15 コマあたり 0.55 コマ行われていた。鬼ごっこは、34 校中 22 校（64.7%）で行われており、15 コマあたり 0.53 コマ行われていた。ボールやなわとび、鬼ごっこを指導内容にとりこんでいる保育者養成校は多いが、その中でもボールや鬼ごっこの指導時間を長くとしている保育者養成校が多いことが分かる。鬼ごっこやボールは、なわとびに比べて、遊びの種類が多いからではないかと考える。

ボール・なわとび・鬼ごっこが指導内容で多く取り入れられているのは、いずれも学生自身が幼少期に遊んできた遊びであり、世代を超えて継承されている遊びと言っても過言ではない。森・岸本・栗原・広瀬・北川（2002）は、保育者養成校の学生に、子どものころに経験のある遊びの調査をしており、経験のある遊び 15 種の中に、鬼ごっこ、ドッジボール、長縄が入っている。また、それらは子どもたちにも親しまれやすく、体験をしてほしい遊びとして考えられており、指導内容に組まれているのではないであろうか。

伝承遊び

伝承遊びは、34 校中 16 校（47.1%）で行われており、15 コマあたり 0.44 コマ行われていた。しかし、鬼ごっこを伝承遊びの中に加えると、34 校中 31 校（91.2%）で行われており、15 コマあたり 0.97 コマ行われていることになる。穂丸・丹羽・勅使（2007）は、日本における伝承遊びと実施状況の調査を行った結果、日本全体の 99%の保育園・幼稚園で伝承遊びが実施されていたが、伝承遊びをカリキュラムに組み込む困難さという質問項目に対し、保育者自身の伝承遊びに対する認識が不足しているという回答が約 58%あったと述べている。伝承遊びを保育者養成校の指導内容に取り組むことは重要だと感じるが、学生を指導する教員側も多くの伝承遊びを知り、指導法を身に付けなければならないと考える。

リズム遊び・フープ

リズム遊びとフープは、それぞれ34校中15校（44.1%）で行われていた。リズム遊びは、15コマあたり0.84コマ、フープは、15コマあたり0.23コマ行われていた。リズム遊びもフープにおいても、子ども達がリズム感を養う必要性を感じているので、学生自身もまずリズム感を養う体験することの大切さを目的としているのではないかと推察する。竹村（2007）は、子どもにおいて、身体表現は、身体をベースに音楽を感じ、理解し、表現することを保育のなかにとり入れ、身体で感じる楽しさ、身体を揺さぶる体験をより多く体験させることが大切であると述べている。学生自身もリズムに乗って身体を動かす体験が多くできるようにリズム遊びの指導内容に取り組む時間を長く組み込んでいるのではないかと考える。

パラバルーンや運動会

パラバルーンは、34校中12校（35.3%）で行われており、15コマあたり0.27コマ行われていた。運動会は34校中11校（32.4%）で行われており、0.47コマ行われていた。パラバルーンは、手軽に容易に取り組むのは難しく、日常の保育で行うことは多くはない。また、どちらかといえば、運動会の行事のようなイメージがあるため、日常的な内容を優先し、パラバルーンを行っていない保育者養成校が多いのではないかと考えられる。運動会の指導内容は、11校中7校で、学生自身が企画・立案をし、各保育者養成校で実践されていた。

組体操・固定遊具・水遊び

最も行われていない指導内容として、組体操・固定遊具が34校中2校（5.9%）、時間数は、いずれも15コマあたり0.03コマ、固定遊具は、15コマあたり0.01コマと行われている時間数は同じであった。水遊びは、34校中4校（11.8%）で行われており、15コマあたり0.20コマしか行われていなかった。組体操においては、幼児対象に行われることが少ないため、授業内容に組み込まれることが少ないのではないかと推察する。固定遊具や水あそびにおいては、保育者養成校にはほとんど園庭にある固定遊具やプールなどの設備がないため、実践できないということも考えられるのではないだろうか。

その他の遊び

その他の遊びとは、カテゴリーに分けることができなかった指導内容である。

表4は、その他の遊びの中の仲間づくりの内容である。幼児に対する運動遊びの内容だけではなく、仲間づくりプログラムやイニシアティブゲームなど学生向け対象の指導内容が含まれていた。学生同士が、遊びを通してコミュニケーションをとり、学生自身がまず身体を動かすことを楽しむという経験をしていると考えられる。杉原・河邊（2014）は、子どもの意欲を高

め、やる気を支えるのは保育者の共に遊ぶ姿であり、笑顔であると述べている。まず、身体を動かすことが楽しいということを学生自身が経験することによって、卒業後の子どもとの関わりに影響を及ぼすと考えられている。

表 4 その他の遊びの中の仲間づくりの内容

- ・仲間づくりプログラム（アイスブレイキング）
- ・仲間づくりプログラム（ふれあい遊びの導入・展開方法）
- ・仲間づくりプログラム（フルーツバスケットの導入・展開方法）
- ・仲間づくりプログラム（リレー遊び）
- ・課題解決型グループゲーム（アイスブレイキング・ホスピタリティ）
- ・用具を使わない運動遊び（仲間づくり的内容）走る
- ・用具を使わない運動遊び（仲間づくり的内容）ゲーム遊び
- ・用具を使わない運動遊び（仲間づくり的内容）ジャンケン遊び
- ・身体ならしと仲間づくりの運動遊び
- ・インシャティブゲーム

表 5 は、その他の遊びの中の基本的動作としての内容である。具体的な指導内容は示されていないが、基本的動作が出現するような運動遊びを行っていることが推察される。

表 5 その他の遊びの中の基本的動作の遊びの内容

- ・歩・走・跳遊び
- ・並びっこ・まっすぐ走る遊び
- ・曲がって走る遊び・遠くへ跳ぶ遊び
- ・連続して跳ぶ遊び
- ・多様な動きを身につける遊び（1）（2）
- ・移動系種目の実践
- ・平衡系種目の実践
- ・操作系種目の実践
- ・移動系運動の発達
- ・操作系・非移動系（平衡系）運動の発達
- ・平衡感覚を身につける動き（バランス感覚）
- ・基本の動作（「歩く」動作・「走る」動作）
- ・基本の動作（「投げる」動作・「跳ぶ」動作）
- ・基本的身体運動の実践（歩・走・跳運動）

表 6 は、その他の遊びの中の用具を使った遊びの内容である。多く使われていた用具として、新聞紙が挙げられ、新聞紙は様々な活用法が考えられる。新聞紙を破って遊んだり、新聞紙を

表 6 その他の遊びの中の用具を使った遊びの内容

- ・ボールや用具を使った運動遊び（新聞紙）
- ・道具を用いた遊び（新聞紙・スズランテープ）
- ・道具を用いた遊び（ゴム）
- ・道具を用いた遊び（フリスビー）
- ・身近な素材を使った遊びを考える（新聞紙を使って）
- ・新聞あそび
- ・布・タオルを使った遊び
- ・手具を使用する遊び（輪・棒）
- ・身近な物を使用する遊び（新聞・風船・風呂敷・タオル・ダンボール）
- ・生活素材を使った遊び
- ・輪・棒を使った遊び
- ・新聞紙などの身近なものをを使った遊び
- ・身近なものをを用いた運動遊び（新聞紙やペットボトル）
- ・身近なものをを用いた運動遊び（タオル）
- ・幼児の体育遊びの実践（手具遊び）
- ・幼児の体育遊びの実践（身近な日用品を使った遊び）

お腹にあてて、新聞紙が落ちないように走ったりなど、多様な動きが出現する遊びが多くあるので、教材として用いられているのではないかと考える。そうした身近な日用品を使うことによって、保育園や幼稚園だけではなく、子どもが自宅に帰ってからでも親子で気軽に遊ぶことができる。子どもの遊び環境を増やすことにもつながるので、保育者養成校での指導内容は重要であると考えられる。

指導案・模擬保育・指導実習

指導案は、34 校中 20 校（58.8%）で行われており、15 コマあたり 0.55 コマ行われていた。模擬保育・指導実習は、34 校中 15 校（44.1%）で行われており、15 コマあたり 2.07 コマ行われていた。各保育者養成校において、指導案作成や模擬保育・指導案実習は、指導時間数を多く確保している。大滝（2008）は、養成校の数科目の授業の中で、実際に書く指導も行われているにもかかわらず、指導案の作成は実習生が難しいと感じる課題の一つであると述べており、指導案作成や模擬保育・指導案実習は保育者養成校の学生にとって大きな課題と考えられる。教育実習や保育実習を目的とした授業は、少しでも実習に対しての不安を解消するために行われていると考えられる。

安全管理・救急法・発育発達

安全管理・救急法・発育発達については講義形式で行われている。安全管理は 34 校中 10 校（29.4%）で行われており、15 コマあたり 0.17 コマ行われていた。救急法においては、34 校中 2 校（5.9%）で行われており、15 コマあたり 0.02 コマ行われていた。発育発達においては、34 校中 7 校（20.6%）で行われており、15 コマあたり 0.22 コマで行われていた。理論に関することは、指導時間数が短く、理論より、実践重視で指導が行われていることが考えられる。

IV. まとめ

本研究では、保育者養成校における運動遊びに関する指導内容の取り組みを調査した。結果、子どもにとって基本的動作が出現し、多様な動きが含まれる遊びや伝承遊びなど様々な体験が保育者養成校で行われていること、そして、学生自身が運動遊びを楽しむ経験ができるような取り組みをしていることが分かった。実践を中心に保育者養成校では授業が進められていた。ある保育者養成校では、指導案や模擬保育・指導案実習に授業時間を多く使っているところもあった。溝口（2012）は、保育者養成校に通う学生自身は、養成校課程に入る以前、そして養成課程における様々な体験を経て、その体験の手応えを感じ、その手応え自体が保育現場に出た時に保育者としての特徴をつくり、さらには保育に反映されると述べている。また、勅使

(1999) は、幼稚園や保育園での遊びは、保育者の介在が求められ、地域や家庭での遊びの衰退が指摘されているいま、遊びやおもしろさを教えることが保育者の大切な仕事のひとつであると述べている。保育者養成校における学生の遊び体験は、保育現場において子どもの心身の発達に影響を及ぼすと考えられる。

本研究においては、運動遊びが実際にどのような内容で具体的に行われているのかまでは知ることができなかった。しかし、今後の課題として、保育者養成校における運動遊びの指導内容が実際に幼稚園や保育園、認定こども園で活用することができているのかを深く調査研究する必要性を見出すことができた。幼稚園や保育園での子どもたちの運動遊びをしている様子や働いている保育者から意見を聞きながら保育者養成校における運動遊びに関する指導内容を組み立てていくべきではないかと考える。

<註>

- 1) ここ数年はいくつかの新体力テストのいくつかの項目で向上傾向がみられるが、ピーク時に比べると依然低いままである。文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、子どもの体力・運動能力は昭和 50 年ごろにかけては、向上傾向が顕著であるが、昭和 50 年ごろから昭和 60 年ごろまでは停滞傾向にあり、昭和 60 年ごろから現在まで 15 年以上にわたり低下傾向が進んでいる。
- 2) 子どもがうまく身体を動かせない姿として、木塚 (2010) は、小学校 1 年生の運動会のかけっこ (50 m 走) を対象に、1 回でも自分のコースから外れた (片足がラインを踏み越した) 子どもの数をカウントした。その結果、453 名の 1 年生のうち 82 名、約 18% がコースを外したと報告している。日本発育発達学会 (2014) は、保育者が年長児の普段の生活の様子を観察した事例をあげ、1 段 1 段足をそろえなければ階段を降りることができなかつたり、手すりを持たないと階段を降りることができなかつたりする年長児がいることや、登降園時などの時に、お尻について座らなければ靴を履き替えることができない年長児がいることを報告している。

<引用文献>

- 穂丸武臣 (2003) 「幼児の運動遊び」『子どもと発育発達』 Vol.1No.3 pp161-164
- 穂丸武臣, 丹羽孝, 勅使千鶴 (2007) 「日本における伝承遊び実施状況と保育者の認識」『名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究』 第 7 号 pp57-78
- 青野光子 (2014) 「伝承遊びに関する研究 (2) ～保育者養成学生の伝承遊びの経験～」『新潟青陵大学短期大学研究報告』 第 44 号 pp65-76
- 堀建治, 松本亜香里 (2012) 「保育者養成校における「運動遊び」に関する研究 (その 1)」『鈴鹿短期大学紀要』 第 32 号 pp29-36
- 岩井幸博 (2010) 「保育者養成課程における女子大生の運動経験に関する調査—幼児期から青年期に至るまでの運動経験—」『貞静学園短期大学研究紀要』 pp229-234
- 木塚朝博 (2015) 「見ながら動き考えながら動く」『子どもと発育発達』 Vol. 7 No. 4、pp229-234
- 溝口武史 (2012) 「保育者養成学生における伝承遊びについての認識について」『小田原女子短期大学研究紀要』 第 42 号 pp50-56

- 森博文, 岸本肇, 栗原武志, 廣瀬勝弘, 北川隆 (2002) 「幼児・学童期における遊び体験に関する研究—幼児教育専攻学生に対する調査から—」『九州女子大学紀要』 第 39 巻 1 号 pp31-44
- 中村和彦 (1999) 「子どもの遊びの変貌」、『体育の科学』 Vol.49 pp25-27
- 日本発育発達学会 (2014) 『幼児期運動指針実践ガイドブック』 杏林書院 pp33
- 大橋美佐子, 谷本満江 (2008) 「伝承遊びに関する研究調査 (1) —30 年間における伝承あそびの意識変化—」、『中国学園紀要』 第 7 号 pp7-12
- 大滝まり子 (2008) 「幼稚園実習における指導案作成の留意点」『北海道文教大学研究紀要』 第 32 号 pp 49-56
- 杉原隆, 河邊貴子 (2014) 『幼児期における運動発達と運動あそびの指導』 ミネルヴァ書房 pp117
- 竹村壽美子 (2007) 「保育における表現の問題—「表現活動：音楽」の実践を通して—」、『四天王寺国際仏教大学紀要』 第 44 号 pp275-293
- 勅使千鶴 (1999) 『子どもの発達とあそびの指導』 ひとなる書房 pp29-41
- 幼児期運動策定委員会 (2013) 『幼児期運動指針ガイドブック』 文部科学省 pp1、pp9